

(第5期：2020、2021、2022年度)

2021年度沖縄大学外部評価委員会（第5期）議事録

日 時：3月1日（火）18:00～19:30

場 所：沖縄大学本館1階同窓会館

出 席：越野泰成委員長、石原地江副委員長、神里みどり委員、田島繁委員、小磯誠委員、三輪大介委員

大学側：盛口満学長、山代寛副学長、小野啓子副学長、黒木義成教務部長、島袋隆志学生部長、崔珉寧
経法商学部長、喜屋武政勝人文学部長、新城正紀健康栄養学部長、名城健二現代沖縄研究科
長、佐喜真実理事長、照屋正常務理事、金城直樹事務局長、田代真紀総務課長、金城敬経営企
画室長、（事務局：経営企画室 兼島徹）

金城直樹事務局長の司会で配布資料の確認、委員及び大学側出席者の紹介の後に次第に沿って進行した。

1. 開会挨拶（盛口満学長）

- ・本日はコロナ禍の中、本学にお越しいただき感謝している。年に一度の委員会開催となるが、委員の皆様のご意見を伺うことで本学の新たな方向性を探りたい。
- ・昨年は沖縄県立看護大学の協力を得て、ワクチン接種を大学で実施することができた。委員の神里学長には改めて感謝申し上げたい。
- ・執行部は今年度で3年の任期を終える。本委員会では3年間を総括して報告を行いたい。

2. 委員長挨拶（越野泰成委員長）

- ・先日、大学評価研究所の大会に zoom で参加した。主なテーマはコロナ禍のオンライン教育での現状と課題であった。大会では、対面とオンラインを併用したハイブリッドの教育の必要性、友達づくりをサポートする学習以外の学生支援体制の重要性など、どの大学にも共通する課題について指摘があった。本日の委員会では、このような課題解決にもつながる議論ができればと考えている。

※以下、次第3～6について、越野委員長により進行がなされた。

3. 長期・中期計画等の概要（説明・報告：金城直樹事務局長）

＜配布資料：資料4 「第五次中期計画の事業数」の報告＞

- ・本学は長期ビジョン（10年計画）を定め、その達成に向けた中期計画を策定している（第五次中期計画5年、第六次中期計画5年により長期ビジョンの目標達成を目指す）。2021年度は第五次中期計画の3年目にあたる。
- ・第五次中期計画では、沖大らしさを追求し、理念の実現を目指した「重点課題」と沖大が高等教育機関として存続していくための「基本課題」をもとに事業計画を立てている。重点課題と基本課

題における課題解決を目指した事業を各学科・各部署で計画し、実行している。

- ・第五次中期計画における重点課題の事業数は「164」、基本課題の事業数は「126」となっている。

<配布資料：資料5 「第五次中期計画の進捗（2020年度）」の報告>

- ・第五次中期計画における重点課題および基本課題の進捗はどちらも平均で1.5の状況である（進捗評価指標：0未着手、1問題有、2順調、3終了）。コロナ禍により計画がなかなか進められない事業もあったが、全体としてはおおむね順調に進んでいる。

4. 執行部による3年間の総括（執行部任期：2019年度～2021年度）

<配布資料：「2021年度沖縄大学外部評価委員会 執行部による3年間の総括」による報告>

- ・盛口学長、小野副学長、山代副学長、黒木教務部長、島袋学生部長により報告がなされた。

※報告内容は、配布資料「2021年度沖縄大学外部評価委員会 執行部による3年間の総括」の通り

5. 学習成果の測定の状況について（説明・報告：小野啓子副学長）

<配布資料：「2021年度学習成果の測定結果」の説明・報告>

- ・大学認証評価において、学生が大学でどれだけ能力が伸びているかを可視化することが求められたため、2019年度より学習成果の測定を行っている。2021年度で3回目の測定となる。
- ・管理栄養学科やこども文化学科のように国家試験や採用試験のある学科は、学生に試験を受けさせることで、点数がどれだけ伸びているかを測定することができる。国際コミュニケーション学科においても、語学力がどれだけ伸びたか測定可能である。
- ・経法商学科は、何をもちいて能力を測定するか難しいが、ルーブリックを作成し「このような能力を身につけてほしい」ことを示し、評価基準を可視化している。

6. 意見交換（第五次中期計画の目標達成に向けた課題、改善点等）

【神里委員】

- ・中退率について教えてほしい。コロナ禍で退学率は上がっているのか。退学理由は？

【金城事務局長】

- ・直近の大学全体の中退率は5.8%となっている。

【盛口学長】

- ・コロナの影響による中退率の急激な変化は認められなかった。本学では退学者面談を実施し、退学原因等の聞き取りを行っているが、コロナの影響を退学理由にあげるケースはほとんどなかった。高等教育無償化の制度がはじまったことで、経済的に厳しい状況の学生が救われている。
- ・退学状況は学科によって違いがある。こども文化学科や管理栄養学科のように、将来の目標が定めやすく、学生同士がフォローし合える関係性のある学科では退学者はほとんどいない。
- ・経法商学科や国際コミュニケーション学科のように卒業後の間口が広い学科では、目標設定が難しく、不安を感じる学生もいる。そのようなことが要因となり退学につながるケースもある。

【小野副学長】

- ・1、2年次に辞める学生の割合が大きい。

【石原副委員長】

- ・これまでの大学の報告を聞いて、大学が学生に寄り添い、理念実現に向けて努力しているのが伝わってきた。
- ・オンライン授業になったことで困ったことや改善したことなどがあれば教えてほしい。

【盛口学長】

- ・コロナの感染レベルに応じて、「教室収容定員の 5 割以下なら対面授業可」としたり、「すべて遠隔授業で」など授業の実施方法を変えて対応している。
- ・演習や実習のように遠隔実施が困難なものではできるだけ対面で実施できるように工夫した。
- ・遠隔授業の学習支援システムが整ったことで、個別の学生の声が見えやすくなったのは良かった点である。一方で、学生と直接顔を合わせる機会が減少したことで、充実感・実態感が湧きにくくなった印象もある。

【小野副学長】

- ・様々なツールを使えるようになったことで、大学の事務も変わった。遠方の人ともオンラインで会議や打ち合わせができるようになり、便利になった側面もある。
- ・オンラインのライブ授業では画面に学生は顔を出さない場合がほとんど。顔が見えない画面に授業を実施するつらさはある。オンライン授業は便利ではあるが場を共有しているライブ感はない。

【石原副委員長】

- ・18 歳に成人になる時代となったことをふまえ、学習支援と同時に学生の自立への配慮についてご検討いただきたい。

【島袋学生部長】

- ・仮想通貨などの消費者問題等に対し注意喚起するとともに、自立を促す支援について検討したい。

【小磯委員】

- ・コロナ禍の不透明な状態でいろいろな取り組みを進めておられると思う。放送業でも様々なイベントが中止になり、会議も Zoom 等、遠隔での実施となっている。大学もまだまだ模索する状況が続いていくと思われるが、遠隔が続くと人とのつながりが希薄になってしまう心配もある。学生の精神面にも気を配っていただき、学生の成長につなげていただきたい。
- ・1、2 年次で中退する学生が多いとのことだったが、中退者の追跡調査等を行っているのか。

【盛口学長】

- ・青年期の成長を研究テーマにしている教員により、中退学生のインタビュー調査を実施したことがある。話を聞いてみると、家庭の事情等、様々な要因により中退しており、専門学校への進路変更、就職、進路未定など、中退後の進路も様々であった。中退者の一部には、共通科目を学ぶ意味が分からないという人もいたため、リベラルアーツの意味づけを行う必要性を感じている。
- ・「沖縄大学論」では、中退学生インタビュー調査を実施した教員を講師とし、本学の中退の状況等について講義を行ってもらったこともある。中退問題を通して大学で学んでいく意義等を考えてもらうきっかけになればと思っている。

【三輪委員】

- ・「地域」は沖大のテーマだが、「県都那覇」「真和志」「アジア」などの視点はみられるが、「離島」という文言が出てこないように感じる。
- ・私の居住する宮古島では小学校が閉校となり、そこに県外の宝塚医療大学が学生寮を作るなどキャンパスを整備している。沖縄にある沖縄大学が離島になかなか目が向かない中で、県外の大学が関心を寄せており、ねじれが生まれている。
- ・小さな離島で事業を営んでいると、取り残されるのは誰なのか常日頃考えさせられる。沖縄大学はどのくらい「離島」を意識してくれるのか、本日の委員会を通してそのようなことを考えた。
- ・入試における選考や学費、学生寮やサテライトなど、アフターマティブアクションはいろいろある。学びを必要としている人が取り残されてしまわないような仕組みについて検討いただきたい。

【盛口学長】

- ・私のゼミでは石垣島の白保との交流を行っている。何とかつながりを持つと対面と遠隔のハイブリッドで、学生による授業を実施した。こうした活動を積み上げていく必要性を感じている。
- ・大学全体として「離島」の位置づけができていないのは、ご指摘いただいた通りだと思う。遠隔で実施できる仕組みについても今後検討していきたい。

【田島委員】

- ・大学と地域の活動については、コロナの影響でこの2年間ほとんど実施できていない。コロナ終息後は沖大と地域との関わりが活発化していくことを期待している。
- ・現在、地域活性化委員会を作り、公民館館長や企業の皆様、地域包括センターの所長、沖大の宮城先生にも入っていただき真和志地域活性化のための意見交換を行っている。
- ・繁多川公民館より、「公民館のしあさって」が出版された。地域の様々な事例が紹介された本となっている。興味のある方は繁多川公民館までお問い合わせいただきたい。

【盛口学長】

- ・大学にお年寄りをお招きしてのデイサービスや放課後こども教室が実施できない状況が続いているが、児童館と連携し、コロナ感染予防の安全対策を講じて本学学生が児童館に出向いて授業を実施するなど工夫している段階である。
- ・学生の中にも貧困の格差があるが、福祉文化学科の学生を中心とした学生による学生支援の新たな取り組みが実施された。地域や企業等から物資を提供いただき、それを困っている学生に届ける活動である。さらに、ここで余った物資を地域の困っている人に返していく活動も実施した。
- ・コロナ禍でオンライン開催された学園祭は、那覇市制100年記念事業と連携し、那覇市を学生に紹介する番組を配信したり、知念副市長（本学出身）からメッセージを頂くなどする企画を立てて実施された。予想を超えた学生の対応力は素晴らしかった。

【越野委員長】

- ・委員の皆様から退学率、オンライン授業の課題、離島振興、地域との交流など問題提起があったが、私も同じ大学人として共通の課題であると感じた。

- ・大学の存在意義が問われる時代に地域のステークホルダーとの関係を深め、地域の期待に応えていただきたい。

※以下、次第7～8について、金城事務局長により進行

7. 新学長の紹介（山代寛 第25代学長）

- ・沖大に来て14年になる。本日委員の皆様から頂いたご意見やご要望を大学運営に生かしていきたい。今後ともよろしくお願ひしたい。

8. 閉会挨拶（小野啓子副学長）

- ・委員の皆様から頂いた貴重なご意見を次年度に生かしていきたい。本日はありがとうございました。

以上

（記録：兼島）